

原 著

教職志望学生の指導のあり方 (2) -教職相談室の利用の実態から-

松原泰通・小川潔 (岡山大学大学院教育学研究科)

平成15年に開設された教職相談室は、昨年度から2名の教員が配置され、教員志望の学生の指導に当たっている。作文添削、面接指導、集団討論、模擬授業など、教員採用試験に関する指導を中心に様々な相談活動を行っている。昨年度の利用学生の急増を受けて、本年度は受付票の改良を行った。これにより、従来よりも簡単かつ正確に利用学生の集計を行うことができるようになり、今後の指導に有用なデータベースとして活用できる体制を整えることができた。本年度、教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生では、教職相談室の利用回数・利用時期・指導内容等に大きな差が見られた。教員採用試験に最終合格した学生の教職相談室の平均利用回数は11.25回であったのに対して、1次試験のみ合格の学生の平均利用回数は6.87回であり、合格しなかった学生の平均利用回数は3.79回であった。

キーワード：教員志望学生、教職相談室、指導内容、指導効果

I. 教職相談室と教員採用率の概況

本学では、教職志望学生の支援を目的として、平成15年から教職相談室が設置された。相談員として退職校長が特任教授として常駐しており、教員採用試験情報の提供、学生への個別相談、集団面接指導、書類の書き方等、様々な相談活動を行っている。

平成20年度からは2名の教員が配置され、相談件数も倍増した。教職相談室の利用者の推移を示したものが表1及び図1である。表中の()内の数字は新規利用者数を示している。

このような教職相談室における学生支援活動を中心とした教職支援体制の充実もあり、近年の教員採用率は向上してきた。(図2)

表1 教職相談室利用者数

平成21年12月25日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16年度	108 (66)	163 (31)	166 (19)	170 (9)	232 (16)	33 (1)	79 (7)	63 (12)	35 (10)	25 (13)	28 (13)	38 (11)	1140 (208)
17年度	104 (47)	184 (21)	168 (13)	195 (18)	267 (2)	29 (3)	81 (9)	46 (6)	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	1178 (146)
18年度	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	1220 (184)
19年度	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	1377 (182)
20年度	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	2770 (408)
21年度	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	142 (22)	83 (24)	99 (26)				2714 (387)

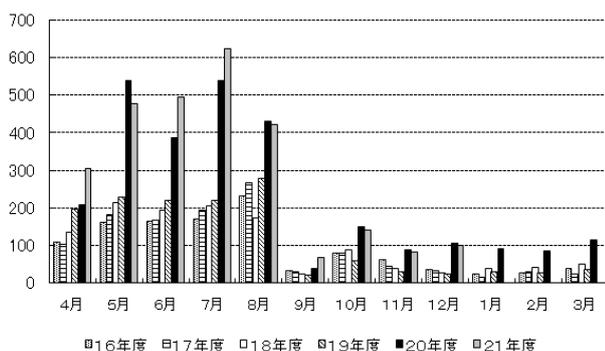


図1 教職相談室利用者総数(過年度比較)

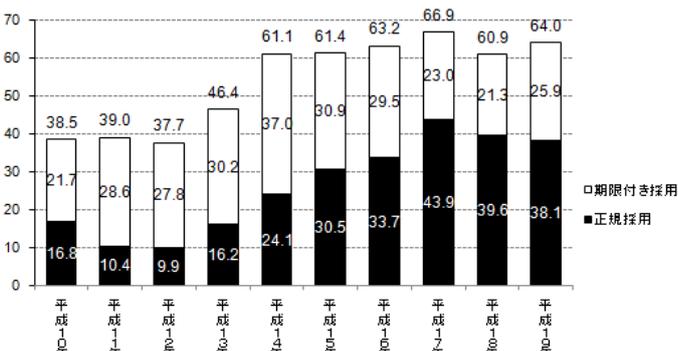


図2 教員就職率の年次推移

II. 本年度の取り組み

1. 改善点

教職相談室で指導を受ける学生は、入室時に受付票を提出する。従来は、学生が日時・名前・所属等を記入した受付票を、教員が受付簿に転記して集計していた。しかし昨年度、のべ2770名もの学生が利用した結果、上記の処理は教員の負担が大きく、また転記する際に記入漏れや間違いが生じやすいという問題が明らかになった。そこで本年度より改良した受付票を使用することとした。(図3)

新しい受付票では、学生が学籍番号・入室した日時・相談内容について、該当する番号を塗りつぶすマークシート方式を採用した。これを連続読み取り式スキャナで読み取り数値化したものを、学生名簿と照らし合わせて集計する。これにより、従来よりも簡単かつ正確に集計処理を行うことができるようになり、今後の指導に有用なデータベースとして活用できる体制を整えることができた。

2. 主な指導事項及び取り組み

本年度の教職相談室における主な指導事項及び取り組みのポイントは次の通りである。

(1) 作文添削

論作文には、学生一人一人の教育的素養がにじみ出てくるものである。試験官は、この論作文によ

て受験生の人柄、人間性、情熱、迫力、協調性などを推量していく。そして、教師としてやっていけるか、その誠実さや人間関係力などを感じとる。それだけに、受験生がその持ち味を限られた時間の中で表現できるように指導することが重要となる。その意味で、受験生自身が元気で意欲がわき出てくるように配慮し、賞賛できる点をチェックしていくように心掛けた。

指導のポイントとしては、

- ①出題者の意図をつかむこと。
- ②全体の構成を考えて書くこと。
- ③簡潔な表現で、読みやすくすること。
- ④意欲を書き表すこと。

について、学生の記述してきた論作文をもとに指導をくり返した。

また、教員採用にかかわるすべての指導の最初に論作文から始めたが、これは後述の集団討論などにも自分の考えをまとめることが生きて働くと考えてのことである。

(2) 集団討論

集団討論では、試験官は、受験生の発言態度や話し合いに参加する態度、リーダーシップの取り具合、話し合いの雰囲気や場面理解の様子などから、教育的情熱や協調性、一人一人の人間性や迫力などを推

教職相談室・受付票

★入室前に学籍番号、日時、今日の相談内容と学部・学年・名前を記入しておいて下さい。

1. 学生番号 *卒業生で学生番号を覚えていない人は、空欄にしておいて下さい。

①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩

2. 入室した日時

月	日	時	分
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩

3. 今日の相談内容

1. 教員採用試験に関すること	A. 集団討論 ① B. 個人・集団面接 ② C. 模擬授業 ③ D. 作文添削 ④ E. 情報・資料提供等 ⑤
2. 講師採用に関すること	⑥
3. 進路に関すること	⑦
4. 学校教育に関すること	⑧

4. 名前

所属	学年 等	名 前
教育学部	1年 M1	
教育学研究科	2年 M2	
()	3年 別科	
	4年 卒業生	

←該当する箇所に○をつけて下さい。

＜記入上の注意＞

- ◇「入室した日時」の欄で、一桁の数字は10の位のゼロを塗りつぶして下さい。(例)1月1日→0・1・0・1
- ◇「入室した日時」の欄で、午後の時間は二桁で記入して下さい。(例)午後1時1分→1・3・0・1

図3 教職相談室・受付票

量していく。そして、学校という組織体の中で、その一員としてやっていけるかを見極めることになる。その意味で、学生一人一人が意欲的に、しかも、状況に応じた自己表現ができるように導くことが重要と考えて指導した。

指導のポイントとしては、

- ①最初の3分間で自分の考えをまとめること。
- ②明るく誠実に考えを述べること。
- ③他の発言者の意見に耳を傾けること。
- ④試験官を意識しつつも、集団での話し合いの流れを汲み取ること。

などについて、くり返し指導した。

また、入退場の動き、礼の仕方など、気持ちのよい動きになるように練習させた。これは、その他の面接試験のときにも生きてくることである。

(3) 個人面接

個人面接では、試験官は、一人一人の受験生の人柄について、率直に尋ねることにより、その応答の態度や内容について吟味し、可否の判定の根拠資料とされる。それだけに、かなりの緊張感をもって練習に臨んできた。また、学生にも、各県・市の過去問について調査させ、各自、その答弁内容をまとめ、練習しておくようにさせた。相談室では、本番並みの心構えで、明るく誠実に話すように指導した。

指導のポイントとしては、

- ①何故この県・市を受験したかを試験官に共感してもらえるように、各県・市のホームページなどで、教育目標、求める子ども像、街づくりの重点などについてまとめておくこと。
- ②①との関連の中で、各自のふるさとの思い出などを整理しておくこと。
- ③何を尋ねられても、正直に、誠意をもって対応すること。
- ④趣味、特技を伸ばしたり、アルバイトやボランティア体験、部活動など積極的に取り組み、コミュニケーション能力を高め、人間関係づくりができるように各自の人間性を磨くこと。

などについて指導した。

(4) 模擬授業

教育実習の体験しかないのが、大半の学生である。中には、一度も授業の経験のない学生もいた。学生支援ボランティアにすぐに行くように指導した。学生支援ボランティアを経験することにより、学生は

自分が就こうとしている仕事について、大まかにでも理解することができ安心していた。

昔と違い、現在は、新採用教員に即戦力となることが期待されている。それだけに、明るくしっかりとした授業態度が求められる。その意味で、自信をもってできる授業から練習を始めるように指導した実習経験のある学生には、附属小・中で一度実践した指導案で、そのときのことを思い出させながら練習した。学生同士で子ども役になり、よい協力関係の中で取り組んでいた。

指導のポイントとしては、

- ①教語、教態の基本
- ②導入の雰囲気づくり
- ③板書計画のたて方
- ④子どもへの語りかけの仕方

などについて指導した。ここはもう一歩と感じたところについては、少し示範も試みてみた。

(5) ロールプレイングや場面指導

養護教諭を目指す学生には、保健室の場面を想定させ、学生同士で教師役、子ども役に代わり合っており、批評・反省をくり返した。又、生徒指導上困難な状況が考えられる都道府県においては、過去問にも生徒指導の困難な場面の対応力が試される内容が多いので、その練習をくり返した。

指導のポイントとしては、

- ①どのような場面が提示されても、即時対応を迫られるため、各自のベースとなる教育観、教育哲学、児童観をもっていないと、迫力が出てこないこと。
- ②教師（自分）の都合のためでなく、子どものための実践であること。
- ③一人だけで解決しようとせず、学校という組織体の一員として対応していくこと。したがって、誰と協力して対応すべきかの判断をすること。
- ④それぞれの場面の対応の仕方に正解はないということ。それぞれの場面に応じて粘り強く子どもに関わっていくということが大切であるということ。

などについて指導した。各県とも非常に現実的な問題が出される傾向にあり、しっかりした教育観をもつこと、また、時事問題に関心をもち、世の中の変わりゆく状況にアンテナを張っておくことが求められる。

以上のような指導意図をもって、それぞれについて指導してきた。

表 2 平成 21 年度教職相談室利用者数

平成 21 年 12 月 25 日現在

	学部					大学院			その他 別科/卒	計 (人)	1日の平均 利用者(人)
	4年	3年	2年	1年	計	2年	1年	計			
4月	242 (99)	30 (29)	1 (1)	0 (0)	273 (129)	14 (9)	11 (5)	25 (14)	7 (6)	305 (149)	14.5
5月	408 (68)	8 (7)	0 (0)	0 (0)	416 (75)	35 (7)	11 (4)	46 (11)	17 (8)	479 (94)	28.2
6月	406 (14)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	412 (18)	47 (5)	9 (1)	56 (6)	28 (6)	496 (30)	23.6
7月	548 (17)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	554 (20)	29 (1)	4 (2)	33 (3)	36 (2)	623 (25)	28.3
8月	361 (6)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	364 (8)	19 (4)	8 (1)	27 (5)	30 (0)	421 (13)	28.4
9月	58 (0)	7 (3)	0 (0)	0 (0)	65 (3)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	66 (4)	4.7
10月	88 (2)	41 (19)	1 (1)	0 (0)	130 (22)	7 (0)	2 (0)	9 (0)	3 (0)	142 (22)	7.1
11月	19 (1)	56 (21)	0 (0)	0 (0)	75 (22)	1 (0)	3 (1)	4 (1)	4 (1)	83 (24)	4.6
12月	18 (2)	75 (19)	1 (1)	0 (0)	94 (22)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	4 (3)	99 (26)	6.2
計 (人)	2148 (209)	231 (106)	4 (4)	0 (0)	2383 (319)	153 (27)	49 (15)	202 (42)	129 (26)	2714 (387)	16.3

*注 1:利用者数はのべ人数である。 *注 2:各月の()内は新規利用者数(実人数)であり内数である。

表 3 平成 21 年度教職相談室の利用の内訳

平成 21 年 12 月 25 日現在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (人)
教員採用試験 に関すること	集団討論	2	226	413	400	6	0	1	5	1	1054
	個人・集団面接	2	14	38	155	130	24	16	8	1	388
	模擬授業	0	0	3	35	197	2	0	0	0	237
	作文添削	196	190	27	23	38	30	8	20	26	558
	情報・資料提供等	95	40	14	8	20	0	36	21	37	271
講師採用に関すること	0	1	1	0	2	3	13	3	6	29	
進路に関すること	8	4	0	2	28	5	64	14	18	143	
学校教育に関すること	2	4	0	0	0	2	4	12	10	34	
計 (人)		305	479	496	623	421	66	142	83	99	2714

Ⅲ. 教職相談室利用の実態

1. 平成 21 年度教職相談室利用者数

平成 21 年度の教職相談室の利用者数を示したものが表 2 である。

平成 21 年 4 月 1 日から 12 月 25 日までの 268 日間のうち、教職相談室の閉室日または相談者がなかった日は 101 日であった。これを除き開室していた 167 日間における 1 日の平均利用者数は 16.3 人であった。

教職相談室の認知度が高まったためか、昨年までと異なり 4 月当初から多くの学生が訪れていることが本年度の特徴の一つである。一方、例年と同様に、5 月の連休明けから一次試験の結果が発表される 8 月末にかけての利用者が非常に多かった。5 月 7 日から 8 月 31 日までの開室日 78 日間における 1 日の平均利用者数は 25.9 人であり、最も多い日(7 月 14 日)には、1 日に 53 名もの学生が相談に訪れた。

2. 平成 21 年度教職相談室の利用の内訳

平成 21 年度の教職相談室の利用の内訳を示したものが表 3 である。

昨年度の方針を踏襲して、教員採用にかかわる全ての指導の最初を作文添削から始めているため、4 月・5 月の指導内容は作文添削が中心であった。その後、多くの教員採用試験で取り入れられている集団討論に関する指導や個人面接・集団面接の指導が増えた。7 月下旬からは 2 次試験に備えて模擬授業の回数が増えていった。教員採用試験 1 次の結果が発表される 8 月や 2 次試験の結果が発表される 10 月には、進路や講師採用に関する相談も増えた。

10 月以降は 3 年生の利用が増えるため、情報・資料提供や進路に関する相談が中心となった。また教育実習終了後、自らの教師への適性について疑問を持った学生が相談に訪れることも少なくなかった。

表 4 分析対象者の所属・性別

平成 21 年 12 月 11 日現在

	教育学部								教育学研究科								特別支援教育専攻	養護教諭特別別科	計 (人)	
	学校教育教員養成課程				総合教育課程				教科教育学専攻	学校教育学専攻	音楽教育専攻	美術教育専攻	教育臨床心理学専攻	発達支援学専攻	教職実践専攻 (教職大学院)	カリキュラム開発専攻				教育組織マネジメント専攻
	小学校教育専攻	中学校教育専攻	幼児教育専攻	障害児教育専攻	教育臨床コース専攻	情報教育コース専攻	生涯教育コース専攻	養護教諭養成課程												
男	64	53	2	4	0	5	2	1	33	3	0	2	0	1	9	1	0	4	0	184
女	108	52	15	13	1	1	0	34	18	4	1	2	6	3	8	1	1	5	38	311
計	172	105	17	17	1	6	2	35	51	7	1	4	6	4	17	2	1	9	38	495

表 5 教員採用試験の可否と教職相談室の利用回数等

	教職相談室 の平均利用 回数	教職相談室利用回数ごとの人数							計 (人)
		0 回	1~5 回	6~10 回	11~15 回	16~20 回	21 回以上		
2 次合格	11.25	11 (8.8%)	28 (22.4%)	26 (20.8%)	16 (12.8%)	24 (19.2%)	20 (16.0%)	125 (100%)	
1 次合格	6.87	13 (18.3%)	27 (38.0%)	12 (16.9%)	10 (14.1%)	5 (7.0%)	4 (5.6%)	71 (100%)	
不合格	3.79	34 (46.6%)	22 (30.1%)	7 (9.6%)	5 (6.8%)	2 (2.7%)	3 (4.1%)	73 (100%)	
未受験・不明	0.86	193 (85.4%)	21 (9.3%)	3 (1.3%)	6 (2.7%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	226 (100%)	
全体	4.63	251 (50.7%)	98 (19.8%)	48 (9.7%)	37 (7.5%)	34 (6.9%)	27 (5.5%)	495 (100%)	

IV. 教員採用試験の可否と教職相談室の利用実態

教職相談室を利用した学生とそうでない学生の教員採用試験における可否の結果について比較する。

1. 分析の対象

(1) 分析対象者及び期間

本年度の卒業予定者 512 名 (4 年生 363 名, 大学院生 149 名) のうち, 退学・休学・留学中の学生 12 名と, 平成 20 年度または平成 21 年度に教員採用試験合格者 5 名を除いた 495 名を分析の対象とした (平成 21 年 12 月 11 日現在)。分析対象者の所属・性別は表 4 の通りである。教職相談室の利用回数については, 平成 21 年 4 月 1 日から同 12 月 24 日までの期間を分析の対象とした。

(2) 分類

495 名のうち, 教員採用試験に最終的に合格した 125 名を「2 次合格」群, 1 次試験に合格したが 2 次以降の試験には合格しなかった 71 名を「1 次合格」群, 1 次試験に合格しなかった 73 名を「不合格」群, 受験したかどうか分からない学生及び結果についての報告がなかった 226 名を「未受験・不明」群と分類した。なお, 複数の地域で受験した学生については, 最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。各群に分類された学生の教職相談室の利用回数を示したものが表 5 である。以下では, 2 次合格群と 1 次合格群及び不合格群に分類された学生の教職相談室利用の差異に注目して分析していく。

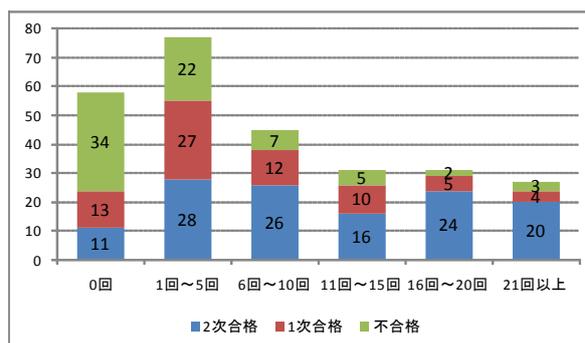


図 4 教員採用試験の可否と利用回数ごとの人数

2. 教員採用試験の可否と利用回数

1 人あたりの教職相談室の平均利用回数について, 2 次合格群と 1 次合格群との利用回数では約 1.6 倍の差があり, 1 次合格群と不合格群との利用回数では約 1.8 倍の差があり 2 次合格群と不合格群との利用回数では約 3 倍の差があった。利用回数ごとの人数について, 不合格群では 0 回が最も多く全体の 46.6% であり, 0 回と 1~5 回までの利用者が全体の 76.7% であった。1 次合格群でも, 0 回と 1~5 回までの利用者が全体の 53.5% を占めていることから, 2 次合格に至らなかった学生は, 2 次合格群の学生に比べて教職相談室の利用回数が少なかったといえる。また 2 次合格群とそれ以外の群では, 16 回以上の利用者数に違いが見られた。2 次合格群では, 16 回以上の利用者数が 44 人 (35.2%) であるのに対して, 1 次合格群では 9 人 (12.7%), 不合格群では 5 人 (6.8%) であった。(図 4)

表 6-1 教員採用試験の合否と月別平均利用回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2次合格(125人)	1.17	1.92	2.26	2.87	1.97	0.34	0.51	0.12	0.08
1次合格(71人)	0.79	1.45	1.20	1.72	1.35	0.10	0.23	0.03	0.01
不合格(73人)	0.51	0.88	0.88	0.99	0.34	0.03	0.08	0.04	0.05
未受験・不明(226人)	0.09	0.18	0.15	0.19	0.13	0.03	0.05	0.01	0.03
全体(495人)	0.51	0.88	0.91	1.16	0.78	0.11	0.19	0.04	0.04

表 6-2 教員採用試験の合否と4月の利用回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	67 (53.6%)	19 (15.2%)	13 (10.4%)	13 (10.4%)	6 (4.8%)	7 (5.6%)	125 (100%)
1次合格	45 (63.4%)	12 (16.9%)	6 (8.5%)	3 (4.2%)	3 (4.2%)	2 (2.8%)	71 (100%)
1次2次不合格	57 (78.1%)	6 (8.2%)	5 (6.8%)	2 (2.7%)	1 (1.4%)	2 (2.7%)	73 (100%)
未受験・不明	215 (95.1%)	4 (1.8%)	4 (1.8%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	226 (100%)
全体	384 (77.6%)	41 (8.3%)	28 (5.7%)	21 (4.2%)	10 (2.0%)	11 (2.2%)	495 (100%)

表 6-3 教員採用試験の合否と5月の利用回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	40 (32.0%)	24 (19.2%)	20 (16.0%)	14 (11.2%)	15 (12.0%)	12 (9.6%)	125 (100%)
1次合格	28 (39.4%)	12 (16.9%)	13 (18.3%)	11 (15.5%)	4 (5.6%)	3 (4.2%)	71 (100%)
1次2次不合格	48 (65.8%)	7 (9.6%)	10 (13.7%)	4 (5.5%)	0 (0.0%)	4 (5.5%)	73 (100%)
未受験・不明	211 (93.4%)	6 (2.7%)	4 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	4 (1.8%)	226 (100%)
全体	327 (66.1%)	49 (9.9%)	47 (9.5%)	29 (5.9%)	20 (4.0%)	23 (4.6%)	495 (100%)

表 6-4 教員採用試験の合否と6月の利用回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	38 (30.4%)	17 (13.6%)	14 (11.2%)	17 (13.6%)	19 (15.2%)	20 (16.0%)	125 (100%)
1次合格	32 (45.1%)	14 (19.7%)	11 (15.5%)	9 (12.7%)	4 (5.6%)	1 (1.4%)	71 (100%)
1次2次不合格	45 (61.6%)	9 (12.3%)	11 (15.1%)	3 (4.1%)	2 (2.7%)	3 (4.1%)	73 (100%)
未受験・不明	211 (93.4%)	8 (3.5%)	1 (0.4%)	2 (0.9%)	2 (0.9%)	2 (0.9%)	226 (100%)
全体	326 (65.9%)	48 (9.7%)	37 (7.5%)	31 (6.3%)	27 (5.5%)	26 (5.3%)	495 (100%)

表 6-5 教員採用試験の合否と7月の利用回数ごとの人数

7月	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	27 (21.6%)	24 (19.2%)	20 (16.0%)	15 (12.0%)	9 (7.2%)	30 (24.0%)	125 (100%)
1次合格	33 (46.5%)	12 (16.9%)	7 (9.9%)	4 (5.6%)	6 (8.5%)	9 (12.7%)	71 (100%)
1次2次不合格	52 (71.2%)	6 (8.2%)	4 (5.5%)	1 (1.4%)	3 (4.1%)	7 (9.6%)	73 (100%)
未受験・不明	210 (92.9%)	5 (2.2%)	2 (0.9%)	7 (3.1%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	226 (100%)
全体	322 (65.1%)	47 (9.5%)	33 (6.7%)	27 (5.5%)	18 (3.6%)	48 (9.7%)	495 (100%)

3. 教員採用試験の合否と月別平均利用回数

教員採用試験の合否と教職相談室の月別平均利用回数を示したものが表 6-1 である。2次合格群、1次合格群、不合格群を比較すると、すべての月において2次合格群の学生の平均利用回数が多かった。一方、すべての月において、不合格群の学生の平均利用回数が少なかった。

多くの自治体では、8月に教員採用試験1次試験の結果が発表されるため、8月以降については、2次合格の学生とそうでない学生では、受験回数そのものやその後の結果についての報告・相談回数が異なってくる。そこで、平成21年4月1日から同7月31日までの4ヶ月間を対象として教職相談室を利用した回数を月ごとに調べ、教員採用試験の合否に従って整理したものが、表 6-2 から表 6-5 である。

4月に5回以上の指導を受けた学生の割合を比較すると、2次合格群では5.6%、1次合格群では2.8%、不合格群では2.7%であった。同様に、5月に5回以上の指導を受けた学生の割合は、2次合格群が9.6%、1次合格群が4.2%、不合格群が5.5%であった。4月・5月の段階では2次合格群とそれ以外の群ではあまり大きな差はなかったといえる。顕著な差が現れたのは6月・7月であった。6月に5回以上の指導を受けた学生の割合は、2次合格群が16.0%、1次合格群が1.4%、不合格群が4.1%であり、7月に5回以上の指導を受けた学生の割合は、2次合格群が24.0%、1次合格群が12.7%、不合格群が9.6%であった。この時期は相談者が殺到し予約がとりにくいが、2次合格群の学生はそこで遠慮したりためらったりせずに、試験日ぎりぎりまで教職相談室を積極的に活用したといえる。

表 7-1 教員採用試験の合否と相談内容ごとの平均指導回数

	教員採用試験に関すること					講師採用に関すること	進路に関すること	学校教育に関すること	教職相談室の平均利用回数(全体)
	集団討論	個人・集団面接	模擬授業	作文添削	資料・情報提供				
2次合格(125人)	4.74	2.04	1.06	2.23	0.54	0.02	0.55	0.06	11.25
1次合格(71人)	2.86	0.87	0.80	1.54	0.49	0.11	0.17	0.03	6.87
不合格(73人)	1.71	0.47	0.29	0.88	0.25	0.14	0.03	0.04	3.79
未受験・不明(226人)	0.35	0.10	0.06	0.18	0.10	0.01	0.06	0.01	0.86
全体(495人)	1.95	0.73	0.44	0.96	0.28	0.05	0.19	0.03	4.63

表 7-2 教員採用試験の合否と「集団討論」の指導回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計(人)
2次合格	21 (16.8%)	12 (9.6%)	8 (6.4%)	11 (8.8%)	13 (10.4%)	60 (48.0%)	125 (100%)
1次合格	24 (33.8%)	9 (12.7%)	8 (11.3%)	5 (7.0%)	6 (8.5%)	19 (26.8%)	71 (100%)
不合格	44 (60.3%)	9 (12.3%)	2 (2.7%)	3 (4.1%)	3 (4.1%)	12 (16.4%)	73 (100%)
未受験・不明	208 (92.0%)	6 (2.7%)	0 (0.0%)	3 (1.3%)	1 (0.4%)	8 (3.5%)	226 (100%)
全体	297 (60.0%)	36 (7.3%)	18 (3.6%)	22 (4.4%)	23 (4.6%)	99 (20.0%)	495 (100%)

表 7-3 教員採用試験の合否と「個人・集団面接」の指導回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	44 (35.2%)	24 (19.2%)	19 (15.2%)	6 (4.8%)	11 (8.8%)	21 (16.8%)	125 (100%)
1次合格	42 (59.2%)	16 (22.5%)	3 (4.2%)	4 (5.6%)	4 (5.6%)	2 (2.8%)	71 (100%)
不合格	55 (75.3%)	9 (12.3%)	6 (8.2%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (2.7%)	73 (100%)
未受験・不明	213 (94.2%)	6 (2.7%)	5 (2.2%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	226 (100%)
全体	354 (71.5%)	55 (11.1%)	33 (6.7%)	13 (2.6%)	15 (3.0%)	25 (5.1%)	495 (100%)

表 7-4 教員採用試験の合否と「模擬授業」の指導回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	72 (57.6%)	22 (17.6%)	10 (8.0%)	8 (6.4%)	7 (5.6%)	6 (4.8%)	125 (100%)
1次合格	48 (67.6%)	11 (15.5%)	3 (4.2%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)	5 (7.0%)	71 (100%)
不合格	62 (84.9%)	4 (5.5%)	5 (6.8%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	73 (100%)
未受験・不明	216 (95.6%)	6 (2.7%)	4 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	226 (100%)
全体	398 (80.4%)	43 (8.7%)	22 (4.4%)	13 (2.6%)	8 (1.6%)	11 (2.2%)	495 (100%)

表 7-5 教員採用試験の合否と「作文添削」の指導回数ごとの人数

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	計
2次合格	52 (41.6%)	14 (11.2%)	13 (10.4%)	10 (8.0%)	11 (8.8%)	25 (20.0%)	125 (100%)
1次合格	39 (54.9%)	5 (7.0%)	10 (14.1%)	4 (5.6%)	4 (5.6%)	9 (12.7%)	71 (100%)
不合格	53 (72.6%)	4 (5.5%)	8 (11.0%)	1 (1.4%)	3 (4.1%)	4 (5.5%)	73 (100%)
未受験・不明	214 (94.7%)	4 (1.8%)	1 (0.4%)	2 (0.9%)	1 (0.4%)	4 (1.8%)	226 (100%)
全体	358 (72.3%)	27 (5.5%)	32 (6.5%)	17 (3.4%)	19 (3.8%)	42 (8.5%)	495 (100%)

4. 教員採用試験の合否と相談内容ごとの平均利用回数

教員採用試験の合否と相談内容ごとの平均利用回数を示したものが表 7-1 である。2次合格群、1次合格群、不合格群を比較すると、「講師採用に関すること」以外のすべての項目について2次合格群の学生の平均利用回数が多かった。一方、「講師採用に関すること」及び「学校教育に関すること」以外のすべての項目について、不合格群の学生の平均利用回数が少なかった。

教職相談室における相談内容の大半を占めるのが「教員採用試験に関すること」である。そのうち、教員採用試験に対する事前指導の中心となる「集団討論」「個人・集団面接」「模擬授業」「作文添削」について、教員採用試験の合否と指導回数ごとの人数を示したも

のが表 7-2 から表 7-5 である。

「集団討論」について、5回以上の指導を受けた学生の割合を比較すると、2次合格群では48.0%、1次合格群では26.8%、不合格群では16.4%であった。「個人・集団面接」について、5回の指導を受けた学生の割合を比較すると、2次合格群では16.8%、1次合格群では2.8%、不合格群では2.7%であった。「模擬授業」は教員採用試験の2次試験以降で課されることが多いため、不合格群で指導を受けた学生は非常に少なかった。この内容のみ、5回以上の指導を受けた学生の割合が2次合格群(4.8%)よりも1次合格群(7.0%)の方が高かった。このように多くの指導を受けながら最終合格まで至らなかった学生に対する指導を詳細に

表 8 教員採用試験の合否と教育実践総合センター企画講座への参加状況

	参加した講座の平均回数	1 回以上講座に参加した学生数(割合)	各回の講座における参加学生数 (割合)				
			5 月度講座	6 月度講座	7 月度講座	10 月度講座	11 月度講座
2 次合格(125 人)	0.96	58 (46.4%)	18 (14.4%)	38 (30.4%)	43 (34.4%)	16 (12.8%)	5 (4.0%)
1 次合格(71 人)	0.52	20 (28.2%)	4 (5.6%)	15 (21.1%)	14 (19.7%)	3 (4.2%)	1 (1.4%)
不合格(73 人)	0.37	13 (17.8%)	6 (8.2%)	8 (11.0%)	8 (11.0%)	4 (5.5%)	1 (1.4%)
未受験・不明(226 人)	0.08	8 (3.5%)	4 (1.8%)	6 (2.7%)	8 (3.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)
全体(495 人)	0.40	99 (20.0%)	32 (6.5%)	67 (13.5%)	73 (14.7%)	23 (4.6%)	8 (1.6%)

分析することで、今後の教職相談室における指導のあり方について検討・改善することができると考えている。「作文添削」について、5 回以上の指導を受けた学生の割合を比較すると、2 次合格群では 20.0%、1 次合格群では 12.7%、不合格群では 5.5%であった。

5. 教員採用試験の合否と教育実践総合センター企画講座「教師力育成講座」への参加状況

教職相談室が所属している教育実践総合センターでは、教職志望学生の「生徒指導力」「授業力」「教師力」「学校力」を高めることを目的として、本年度より「教師力育成講座」を開講している。具体的には、現役の校長を講師として迎え、「今」学校現場が直面している問題について基調提案をしてもらい、それを踏まえて学生同士で議論をしていくというものである。平成 21 年 5 月から同 11 月までに 5 回の講座を実施してきた。(詳細については、別稿「高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム『教師力育成講座』の開発－学士課程教育の構築に向けて－」参照)。

この教育実践総合センター企画講座への参加状況と教員採用試験の合否の結果を示したものが表 8 である。1 人の学生が参加した講座の平均回数は 2 次合格群が 0.96 回、1 次合格群が 0.52 回、不合格群が 0.37 回であった。1 回以上、講座に参加した学生の割合は、2 次合格群が 46.4%、1 次合格群が 28.2%、不合格群が 17.8%であった。また数はあまり多くはないが、教員採用試験の結果が発表された後の 10 月・11 月の講座にも 2 次合格群の学生は、それ以外の学生に比べて積極的に参加している。このような通常の授業や単位とは直接関係のない企画講座等に対しても積極的に参加しようとする姿勢の有無が、教員採用試験の合否結果とも大きく関係しているといえる。

V. 今後の展望と課題

教員採用試験合格者の教職相談室利用回数は、11.25 回であるが、利用回数ごとの合格者数と不合格者を比較してみると、利用回数が 0～8 回では不合格者数が合

格者数を上回っているが、9 回以上では合格者数が不合格者を上回るという結果になった。学生に対して、今後とも 9 回以上の教職相談室利用を働きかけていきたいと考えている。

昨年度に比べて、今年度は 10 月 11 月の教職相談室の新規利用者数が増加している。これは、教育実習を終えた 3 年生が、教員採用試験に向けての準備のために来室するようになったためである。このような学生に対して、

- ①毎日、リズムを決めて筆記試験に向けての勉強をすること
- ②学校支援ボランティアをすること
- ③週 1 回ぐらいのペースで論作文を書くことの 3 点について指導している。特に論作文は、採用試験での有無にかかわらず、この時期から書くことを勧めている。それは、自分なりの教育観や教師観を形成する上で有効であるとともに、集団討論や面接にも生きて働く力となるからである。今後とも、5 月の連休あたりまでは、論作文の添削指導を中心に行っていきたいと考えている。

年間を通して最も利用者が多かったのは 7 月である。これは、7 月に 1 次試験があるというだけでなく、1 次試験の発表までの間に、2 次試験に向けて意欲を持続させ、集団面接・個人面接・模擬授業などの練習に取り組んだ学生が多かったからである。図 5 に示したように、7 月は来室予定スケジュールがいっぱいになるという現実はあるが、そうした場面においても見学者を増やすなどの方法を取りながら、今後とも学生のニーズにできるだけ応えていきたいと考えている。

今後の課題としては、次の 3 点がある。

(1) 相談カルテの導入

一年間にのべ 3000 人ものが教職相談室を訪れるようになったことは大変喜ばしいことではあるが、その一方で、一人ひとりの学生と向かい合う時間が少なくなると感じることもある。限られた時間の中でより充実した指導を行うために本年度より導入した受付票をさらに進化させて、学生の「相談カルテ」を作

成していきたい。具体的には、その学生の略歴やボランティアの経験の有無、教員採用試験の希望受験地、これまでの指導の履歴等を1枚のカードに整理しておく。これを見ればすぐにその学生と特定できるような「相談カルテ」により、何度も同じ質問をしたり、これまでの指導を振り返ったりする時間を短縮することができる。さらに、これを電子化してパソコンの画面上で表示することができれば、より効率的な相談業務ができると考えている。

(2) 自主学習室の整備

前述の教育実践総合センター企画講座は、現在のところ、通常の授業の中に位置づけられているものではない。従って、受講を希望していながら、授業との関係で参加できないという学生も多かった。そのような学生のために、校長先生の基調講演部分をビデオで録画して、希望者が視聴できるようにしていた。しかし教職相談室を他の学生が利用している間はビデオの視

聴ができないため、実際にはあまり活用されていないのが現状である。そこで、教職相談室内もしくは近くに学生が比較的自由に利用できるような自主学習室を整備したい。単にビデオを視聴するだけでなく、集団討論や模擬授業の様子を撮影し、その後、ビデオを見て振り返りながらの指導や学習を行うスペースとしても活用することができる。

(3) 学生の意識の変化の質的な調査

教職相談室の受付票の改良により、利用学生の量的な変化を把握することができるようになったが、今後は利用学生の意識の変化にも踏み込んだ質的な調査を実施していきたいと考えている。具体的には、本人了承のもと、学生に対する作文添削指導や面接指導の結果を記録し、その学生の回答や意識の変化を分析していく。また教職相談室での指導そのものについて、本人に対して第三者による聞き取り調査を行う。これらを通じて、教職支援活動のさらなる充実を図りたい。

MON	TUE	WED	THU	FRI
29	30	1 10:00 北 11:00 柳野 11:50 宮本 先読 (13:30 田村) 14:30 寺田	2 伊藤 10:00 田中 11:00 近藤 13:30 森川 14:20 藤井 16:00 田村	3 10:00 田中 11:00 藤井 13:30 北 14:15 高橋 15:00 近藤 16:00 藤井
6 10:00 森 11:00 豆花 13:30 藤田 14:00 柳野 15:00 藤野 16:00 田村	7 10:00 山根 11:00 藤井 13:30 森 14:30 富田 15:30 三宅 16:15 三宅	8 教師力	9 10:00 周田 11:00 坂本 14:30 寺田 16:00 田村	10 10:00 藤井 10:30 藤井 13:30 宮本 14:30 山根 15:30 藤井
13 10:00 山根 10:30 藤井 13:30 田中 14:30 田中 16:00 藤井	14 10:00 藤井 10:30 豆花 11:30 藤田 13:30 藤井 14:30 寺田 15:30 藤井 16:30 藤井	15 10:00 寺田 10:30 富田	16 10:30 北 11:15 下野 13:30 野尾 14:30 藤井 15:15 宮本 16:00 三宅	17 10:00 三宅 10:30 藤井 11:00 藤田 13:30 藤井 14:10 藤井 15:00 藤井 16:00 藤井
20 藤の目 友引	21 10:00 藤井 11:00 藤井 13:30 藤井 14:30 藤井 16:00 藤井	22 10:00 藤井 11:00 藤井 11:00 藤井 11:00 藤井	23 10:00 藤井 11:00 藤井 13:30 藤井 14:30 藤井	24 10:00 藤井 11:00 藤井 13:30 藤井 14:30 藤井 16:00 藤井
27 10 藤井 11 藤井 13:30 藤井 16:00 藤井	28 13:30 藤井 14:30 藤井 16:00 藤井 16:00 藤井	29 10:00 藤井 11:00 藤井 10:30 藤井	30 10:00 藤井 11:00 藤井 14:00 藤井 14:30 藤井 15:30 藤井 16:30 藤井	31 10:00 藤井 11:00 藤井 13:30 藤井 14:30 藤井 15:30 藤井 16:00 藤井

図5 教職相談室入室予定スケジュール(平成21年7月)

Title: Provision of guidance to students wishing to become teachers (2):
Status of how the Teaching Profession Consultation Office is being used

Yasumichi MATSUBARA, Kiyoshi OGAWA (Graduate School of Education, Okayama University)

Keywords: Students wishing to become teachers, Teaching Profession Consultation Office,
content of guidance, effects of guidance
